

2023年6月20日(火)発表
愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
担当 芸術情報・広報課(木村・池田)
電話 0561-76-2873(ダイヤルイン)
E-mail geijo@mail.aichi-fam-u.ac.jp

愛知県立芸術大学芸術講座

クリティカル・ライティング・ワークショップ

「結んだりほどいたりする(批評)」

愛知県立芸術大学社会連携センターでは、広く県民の皆さまに芸術文化に親しんでいただくために、「愛知芸大芸術講座」を多数開催いたしております。このたびは、芸術講座クリティカル・ライティング・ワークショップ「結んだりほどいたりする(批評)」を開催いたします。

事前に文章を読んで分析し、実際に自分で書くことを通じ、客観的なディスクリプションに留まらない価値判断の実践を目指すワークショップです。本ワークショップでは、異なる事象をアナロジーでつないだり、似たようなアイデアを区別して整理したりする、そうした言語化の作業を通じて、記述する力を養っていきます。引用などの論文作法的な技法も実践に取り入れますが、自由に書きたいことを書く能力を身に付けることを目的とするものです。参加者は事前に講師により課題が与えられ、レクチャー後にも課題が課される実践型の芸術講座です。

是非貴社にお取り上げいただきたく、お願い申し上げます。

【タイトル】 クリティカル・ライティング・ワークショップ
「結んだりほどいたりする(批評)」

【日程】 2023年8月26日(土)

【時間】 15:30から18:30まで(15:00開場)

【講師】 西村 紗知(批評家)

【受講料】 無料

【定員】 10名ほど(事前申込:先着順)

【参加資格】 課題をすべて提出できる方、8/26のレクチャーに出席できる方

【会場】 愛知県瀬戸市 Art Space & Cafe Barrack
(瀬戸市末広町1丁目31-6 タネリスタジオビルディング1階)

【申込方法】 右記QRコードから。

【問合せ】 愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課 TEL. 0561-76-2873

URL: <https://www.aichi-fam-u.ac.jp>



申込フォーム

結んだりはばどいたりする

クリティカル・ライティング・ワークショップ

本ワークショップでは、異なる事象をアナロジーでつないだり、似たようなアイデアを区別して整理したりする、

そうした言語化の作業を通じて、記述する力を養っていきます。

8月から9月の2ヶ月の間に文章の課題が2つあり、

8月26日には講師によるレクチャーがあります。

9月末に講師による添削ののち課題が返却されます。

参加が決定した方に課題の詳細、提出方法とメッセをお送り致します。

2023年8月26日土
15:30~18:30 (15:00開場)

場所 | 愛知県瀬戸市
Art Space & Cafe Barrack

受講料 | 無料 | 事前申込制
(定員10名ほど・先着順)

参加資格 | ●課題をすべて提出できる方
●8月26日のレクチャーに出席できる方

申込方法 | QRコード
申込フォームから



課題①

ゲオルグ・ジンメル「橋と扉」を読んで、気になった箇所をメモしてください。このテキストにある「結合」と「分割」を意識して、日々の出来事や、街中の風景、芸術経験、自分自身の内面描写など何でも結構ですので、なるべくたくさんメモしてください。

課題②

レクチャーを経て、3000字程度の批評文ないしエッセイを執筆してもらいます。

講師

西村 紗知 (批評家)

1990年鳥取生まれ。論考に「椎名林檎における母性の問題」(「すばる」2021年2月号、2021すばるクリティーク賞受賞作)、「グレン・グールドに一番近い場所」(「すばる」2021年9月号)、「お笑いの批評的方法論あるいはニッポンの社長について」(「文学界」2022年1月号)など。自分が何で批評家になったのか、実はまだよくわかっていません。

批評

愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114

☎0561-76-2873 (受付時間 平日 9:00~17:30)

URL <https://www.aichi-fam-u.ac.jp/>

●主催:愛知県立芸術大学 愛知県立芸術大学

●企画:愛知県立芸術大学 社会連携センター

ACCESS



瀬戸市末広町1丁目 31-6 タネリスタジオビルディング1階

○名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅より徒歩約6分